

# 会派行政視察報告書

令和 3年 7月 20日

長浜市議会議員 様

長浜市議会議員

会派 新政クラブ 吉田 豊



私が出席した会派行政視察の結果について報告します。

## 記

1、視察等名 会派 新政クラブ 行政視察研修

2、視察期間 令和3年 7月 13日 (火)

3、視察場所及び目的

場所 三重県北牟婁郡紀北町 「速水林業」

目的 市域の約半分を森林が占める本市の森づくり計画と、進めていく中で、森林の多面的機能を発揮し、先進的な森林経営をされている「速水林業」の代表・速水亨氏にご教授頂く

4、調査内容感想等

速水林業の概要は、創業1790年で、紀伊半島の南部に位置し、総面積1,070haで樹種として針葉樹人工林813ha(ヒノキ99%)広葉樹249ha、生態保護林60haを有している。従業員は14名で平均年齢は43歳である。

速水林業の特徴は①高樹齢の森林が多い。②人工林は大半がヒノキ。③林内道が50m/1haある。④林道・作業度密度を前提に機械化。⑤生産する丸太は高品質で品質は安定している。⑥作業員の技術とモチベーションが高い。⑦環境配慮で人工林の多様性は確保されている。⑧育林作業の合理化を苗木生産から実行。⑨多様な伐期で既存の需要から新しい需要まで対応。と9項あげられている。

速水林業の山づくりの考え方は、地域住民に理解してもらえる経営、

環境的に豊かで美しい森林を守る環境管理人工林育成技術の確立、

(安全確保、機械化、林内道、技術)そして議論の存在する現場とされている。自然との共生、地域との共生を大事にされている。

具体的な管理としては、林冠の開放度を20%以上とする。地表植生林内広葉樹の維持の配慮、多様な林況をモザイク状に配置する。

溪流・河川を保護する樹木帯を育て残す、又、倒木・枯木・洞木を計画に残し、結果として環境配慮の管理をした人工林では243種、広葉樹中心の保護林は186種の植物種を有している。

又、植物が豊かになれば他生物も多様になり、水も綺麗になり、森・川・海の生物相が豊かになったと言われた。

林業経営が現在、今を生き残る生存競争にさらされている中、コストをかけた生物多様性配慮は不可能で、長期的に考えなくてはいけない。森林は人工林と言えども、生物多様性の確保が日常的に重要であり、森林の表面土壌を流失させず、動かさない配慮が必要とされている。間伐については、森林は斜面にあるので下層植生の繁茂が土壌流出を止める。多様性の向上、山火事防止に有効と考える。

しかし、バイオマス生産は間伐がない方が大きい時があると考えられている。たとえば、短伐期でチップ生産を行う場合は、無間伐で行い又、利用間伐で間伐木の有効な利用がなければバイオマス成長は無間伐が大きいと言われている。

造材においては、一般的には柱で真っすぐで3~4m、細い断面18~24cmが柱用材に、次に少し曲がっていても4m取ればベニア用材どれも当てはまらなければバイオマスにされているが、速水林業では牡蠣の筏用材・並材の柱、太ければ割角や厚板を採る3m材、2mの板材用丸太、根元に近い元返しは精油用、残りはバイオマス燃料と工夫して採られていた。

現在、日本における森林は、国土面積3,780万ha、森林面積2,508万ha、天然材等が6割の1,479万ha、人工林が約4割の1,029万haで森林全体の蓄積量はこの半世紀で約2.7倍になっており、特に人口材は約5.9倍にも達している。こうした国内の林業のプラス面とマイナス面を考えると、プラス面として森林蓄積の増加、自給率の回復、スギ需要の拡大、バイオマス発電の増加、若手の割合増加、クリーン材木法が成立、森林認証の増大、公共建築の木造化法、新しい木材の使用法間伐が市民に認知等がある。

マイナス面は、住宅着工数の下落、木材価格長期下落、林業従事者の減少、スギが最も安い木材、森林管理技術の低下、コストダウンが進まない、森林所有者の所得が無い、再造林の放棄、育森の合理化が進まない、環境の配慮が行われない、市民との関係が表面的等である。速水林業代表・速水享氏はこうした現状を大極的視点で考えられ、木材、林業産業は、安定かつ強固な事業基盤で有望とし、日本の唯一の再生可能資源の森林活用に山林への集中投資により、インフラ・事業環境整備を進めていくとされている。

具体例として、森林管理の担い手のあり方としては、林地所有者、森林管理者、森林作業員で担う。林業機械の導入促進、林業労働力の改善等官民分担して取り組まれていた。

最後に速水代表は、長浜市の考える育林標準として、造林面積 3.20ha 伐期を 80 年として  $3.20 \times 80 = 256\text{ha}$  しか循環林が残らない。伐期を 60 年なら  $3.20 \times 60 = 192\text{ha}$  となり育林をどこまで合理化できるかが重要と指摘されました。

長浜市の森林は、森林の有する多面的機能の発揮を通じて、市民生活に欠くことができない様々な恩恵をもたらしています。

これらの機能を有する森林には、地域経済の活性化はもちろん、観光振興や地域の歴史文化の保存継承、癒しの場、環境学習の場としての役割も担っています。

本市は市域の半分が森林であり、この資源を有効に活用していかなければいけません。

このようなことから、本市の森林資源も、速水林業の経営理念を参考に、将来にわたって持続的に森林の適正管理が出来る様に積極的に取り組んでいく必要を強く感じました。